

【講演要旨】

平成23年11月6日（日）エスポワールいわて
いわて思春期研究会総会・特別講演会

特別講演「新潟県中越地震での子どもたちと心のケア」

新潟県立生涯学習推進センター所長
中島 憲一先生

新潟県中越地震での子どもたちと心のケア
子どもたちに寄り添い いっしょに走る

お世話になっていた地域と学校
「旅のしょから先にあがってもらってくんない」
塩殿小学校同窓会の合宿
「まだ、こんな学校があったんだ」 ここならやれる！キーワードは「鍛える」
学校経営を楽しんで行う

コミュニティの大切さ
子どもたち同志でも、大人同士でも

中越地震発生
同窓会長が避難所長 魚沼産コシヒカリを持ち寄って炊き出しスタート
学校の役割を再確認する
まずは、家庭を、家族を大切に、大切にしているんだ、という経営側のアピール
勇気を持って一歩踏み出す
避難所生活は心が下向きになる 欲求を抑える生活をせざるを得ない
でも、子どもはそれではダメ。運動させる！
陥没した道路の先に子どもたちの仲間がいる 現場を見て、子どもたちを見て、対応
していくこと。
振り返らずに走り続ける しばらくは振り返るのを止める 与えられるモノにはあ
えて手を付けず、自分たちで行ったことの成果を見ていく
子どもたちは復興の担い手である
夢中で行って乗り切る。そして、真のよろこびを実感するとき
愛されているとき、ほめられているとき、役に立っているとき、必要とされていると
き
一人一人の輝く個性が織りなす凛々しいコミュニティ
厳しいのは当たり前 前へ前へ走り続ける
大人の姿を見て、更に傷を負う子供もいる 大人の姿の重要性

子どもの元気は地域の元気
でも、地域の元気は子どもの元気

質疑応答

遠藤さんより

「復興」という言葉が子どもたちへどのように影響していくか
阪神のさいには1年後にようやく出てきた。今回はたった数ヶ月でその言葉が使われている。

福島先生より

7年を経過して、当時の子どもたちがどのように成長していったか、その影響は？
子どもたちへの呼びかけ～元に戻ればよい、のではなく、それを糧としてどう成長して
いってもらえるようにするか

熊坂先生より

ストレス性の行動～夜泣きなど どれくらいで落ち着いていったか、教職員へのケア
は

1ヶ月半くらいで発現し、3～4ヶ月で安定していった。教職員は長期化することも
十分あり